

平成22年

季刊

夏季号

Vol.34

亞東



社団法人亜東親善協会第39回通常総会：懇親会



社団法人亜東親善協会

The East Asian Friendship Association

社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七—五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

- ① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に關する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版
- ② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介
- ③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び幹旋
- ④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談
- ⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の幹旋
- ⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で、昭和二十四年（一九四九年）東京に設立された『華南俱樂部』が発祥です。

第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。

その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、昭和四十七年（一九七二年）の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち昭和四十六年（一九七一年）、千葉三郎先生（衆議院議員、労働大臣）は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り自ら発起人となり同年五月二十九日『社団法人亜東親善協会』（外務省認可）を設立したのであります。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の一職のまま会長に就任され、内外の信望を集めました。その後、原先生の意を受け、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長引き継がれ、幾多の変遷を経て参りました。

現在、日本を始め東アジア諸国は、台湾海峡問題と北朝鮮の核問題という二つの問題があります。この両問題には中国は大きく関わっています。かかる情勢の中で本協会の目的達成事業が発展することは、アジアの繁栄と平和に貢献するものと信じております。平成十三年まさに二十一世紀の幕開けを期して、第四代目会長として玉澤徳一郎先生を迎え、さらに陣容を強化し、英知を結集し努力を続けている次第です。

季刊「亜東」平成二十二年 夏季号 目次

社団法人亜東親善協会概要・変遷

二頁

社団法人亜東親善協会通常総会報告

社団法人亜東親善協会・事務局

四頁

日米安保運動の原点に還ろう

社団法人亜東親善協会会長・玉澤 徳一郎

七頁

季刊「亜東」夏季号への投稿

台北駐日経済文化代表處・代表 馮 寄台 閣下

一〇頁

参議院選挙とその後の政局

政治評論家・浅川 博忠 先生

一三頁

台湾の歴史

台北案内より

二四頁

平成二十二年度訪台団について

平成社団法人亜東親善協会・事務局

二五頁

台北文化センター開設

台湾週報より

二六頁

暑中見舞い広告

二七頁

顧問国会議員・関係団体・役員名簿

社団法人亜東親善協会・事務局

三〇頁

お知らせ・編集後記

社団法人亜東親善協会・事務局

三一頁

社団法人亜東親善協会
第三九回通常総会報告

於 ホテル ルポール麹町
平成二二年五月一三日一六時

司会 多 おおの たかす 忠和理事の開会の
言葉があり。冒頭 玉澤徳一郎
会長の挨拶がありました。

議長選出については、司会者一
任で、多忠和理事は、理事・張
建國副会長を指名されました。

議事録署名人の選出の件は、議
長一任とのことで、東達夫理事、
松永理恵子理事が指名された。

議事

第一号議案

平成二二年度事業報告承認の件。

南部晴彦理事より、協会が平成
二二年度の事業計画に基づいて
実施した各種活動について、そ
の主な事項を報告した。

一、組織の強化及び会員の増強。
二、我が国と東アジア地域に於
ける親善交流の推進。

三、後援、協賛事業の推進。

四、会議の開催。

五、事業開催について

通常総会開催

講演会の開催

社会見学会研修会の開催

創立六十周年記念事業開催

新春互礼会の開催

日台親善訪台視察団の実施

会報「季刊亜東」の発行

六、会の諸活動・事務報告

八月八日台風八号の直撃に
より台湾南部が甚大な被害
を受けた事に対し、協会が
義援金を募り、百万円を馮
寄台代表に贈りました。他

第二号議案

収支決算報告承認の件

赤松則宏理事より、平成二年
度の決算を報告した。

一、正味財産増減計算書

二、貸借対照表

三、財産目録書

四、財務諸表 注記事項



議長・張建國副会長

監査報告

莊司隆一監事より、会計及び業
務の監査を行い次の通り報告。

一、監査の方法の概要

二、監査意見

財務諸表は正しく示してい
る。

事業報告は真実である。

理事の職務執行に不正な行
為、法令若しくは寄付行為

に違反する重大な事実は無
いと認める。

議長は、第一号議案、第二号議
案は、関連あるので、一括承認
を諮り、異議無く承認された。

第三号議案

任期満了に伴う、理監事、役員
選任の件。

崎谷秀彦専務理事より、理事会
より提出された任期満了に伴う
次期理監事選出案を報告。

議長は、理監事選任を諮り、原案どおり 理事に玉澤徳一郎、池田慎一郎、張建國、張碧華、崎谷秀彦、小松省一、橋本靖男、赤松則宏、千葉健司、仲谷俊郎、東 達夫、新井秀子、南部晴彦、益山 茂、李ハロルド、松永理恵子、多 忠和、三浦信行、大江康弘の十九名が選任され、それぞれ就任いたしました。

監事には、莊司隆一、藤山雅康が、就任いたしました。

崎谷理事より新役員選出については、総会終了後、臨時理事会を開催し、選出すると報告がなされた。

第四号議案

平成三年度事業計画案承認の件。

南部理事より、本年度の事業計画の大綱は、重要事項及び具体的な内容は次の通りとする。

一、組織の強化及び会員の増強

二、親善交流の基本理念として相互の歴史、伝統文化の理解がより一層の交流をふかめる、その為各種会活動、研修会講演会等の開催と共に活発な文化活動、留学生を始め、若者との交流会を実施していく。

三、後援、協賛事業の推進
友好団体との事業（講演会、研修会など）の後援、協賛を積極的に推進していく。

四、会議関係、事業計画の内容
定例理事会、委員会の開催
会報「季刊亜東」の発行
講演会、研修会の開催
留学生懇談会、社会見学会
新春互礼会の開催
日台友好親善訪問団の実施

第五号議案

平成三年度収支予算案承認の件。
赤松理事が収支予算案を提出

議長は、平成三年度事業計画案・収支予算案を諮り、本件は原案どおり承認可決されました。

多理事の閉会の言葉があり、休憩後、引き続き記念講演会が開催されました。

【講演会】

於 ホテル ルポール麹町

平成三年度五月一三日一七時



講演会会場

司会 三浦信行理事の開会の挨拶・講師紹介

講師 社団法人亜東親善協会会長 玉澤徳一郎

演題 日米安保条約の意義
(普天間問題について)

講師 政治評論家 浅川 博忠先生

演題 参議院選挙とその後の政局



浅川博忠先生

【懇親会】

赤松理事の司会により懇親会が開始されました。



金大子 江副 馮寄台 中台 理事

主催者を代表して、玉澤会長は、雑誌【正論】の五月号に「台湾は共産中国の膝下に屈しない」と題する馮寄台代表の記事に触れ、内容を高く評価したうえで、今後更なる日台両国の関係強化に期待を示しました。



駐日代表・馮寄台閣下

馮代表は、「協会の皆様方は、交流促進のため何度も訪台され友好の実を結んでこられた。今年二月下旬訪台され台日地方交流、親善の促進、観光などの関係強化について、新竹市長、宜蘭縣副縣長らと意見交換し、成果のある交流をおこなった。四月、台北文化センターを開設し、十月、東京羽田空港・台北松山空港を結ぶ直行便が就航する予定であり、今後の台日交流が一

層頻繁になっていく」と述べ、亜東親善協会の協力及び支援に感謝の意を示すとともに、協会の益々の発展を祈願された。

来賓の畠中篤交流協理理事長の祝辞。



畠中交流協理理事長

園部逸夫台湾協会会長が挨拶を述べられ、その後亜東親善協会笹川堯顧問のご発声で日台関係の発展を祝福し乾杯。懇親会が開宴されました。



笹川顧問 園部会長



乾杯・協会顧問役員

張碧華副会長の一本締めで盛会裡、お開きとなりました。

日米安保運動の原点に還ろう

社団法人亜東親善協会

会長 玉澤徳一郎

鳩山内閣は、普天間問題の処理を誤り、政権樹立から八ヶ月で崩壊した。国を護り国民の生命を守る安全保障問題で全くの無知をさらけ出しての辞任で世界に大きな恥をさらした。

経済大国日本の総理の水準はこの程度ものかと世界中が驚いたことであろう。せめてもの、早期退陣したことが、国のために役に立ったことは皮肉としかいいようがない。

先日、日米安保五十周年を記念して、フォーラムが開かれたので参加してみた。主催者の一人である東大の名誉教授の先生が「私は五十年前の安保改訂の時、東大で熱心に反対運動をしていた」と、とうとうと語って

いたのには、またびっくりした。

また、もう一人の先生は「私は、当時大学の一年生であつたが、全くのノンポリ学生であつた」と述べていた。時間がなかった

ので、なぜ反対運動から、賛成の立場に替り、今日があるのかを聞くことができなかったのは、残念であつたが、日本人の短期（短気ではない）思想変せんぐせと私は云っているが、青年期の左翼思想が、三十代、四十代になつて反動となるということ。を昔よく先輩に聞かされたものである。これは、日本のインテリの幼稚を物語る悲しい現象である。当時の左翼運動家が今ではばりばりの右翼となつている例があまりにも多い。

二十代の若者は、れつきとした大人であり、ものの考え方も、一生を左右する責任をもった考え方でなければならない。若者は、とかく社会に甘えがちな土

壌がここにある。国の運命を左右する運動に参加する以上、どちらにせよ命がけでなければならぬし、そのときの考え方は、一生を貫き通す考え方であるべきが当然である。

両先生には大変失礼ではあるが、当時安保斗争に参加して、日米安保条約に激しく反対した方々が、年月を経て賛成に廻る程の年月、日本は平和で安定した国であつたということである。

これこそが日米安保条約によつて日本に与えられた効能であつたのだと思わせていただく。

日本の大学の安全保障学の大家である先生ですらこの程度であるから、一般大衆は、日米安保条約は、空気が、水の如きもので、当然あるものとして、ありがた味を感じないものになつてきたということであるし、当時、学内で九十%にのぼつていたと思われる反対の風潮の中で、

大部分の学生が、反安保、反自民、反岸であつた。その世代が、今や官庁や会社を退役して、団塊の世代となり、総評論家となつて、選挙となれば、自民党と聞くだけで、アレルギー的嫌悪感を示す。投票行動にもそれがあらわれる。これが自民敗退の要因の一つになっていると私は考えるのである。この大衆にして、この総理があるということなのである。

さて、日米安保五十周年のフォーラムでは、懇親会の席上で、意見を求められたので私は私なりの一言感想を述べた。「私は、五十年前の安保改訂の際には、熱烈な賛成運動を展開した少数の学生の一人でありました。我々の戦うべき相手の理念は反安保非武装中立であつた」ことを述べました。日本が戦争に巻きこまれない為には、アメリカにもソ連にもつかず、非武装中

立の国になるという理論が敗戦によって傷つけられた多くの学生大衆の心をとらえた。マッカーサー元帥の「日本は東洋のスイスタレ」という言葉にも大きな影響を受けたと思う。

かつて国を誤った松岡外相の娘という人が、日本はスイスのように非武装の国家たれ（実際は重武装国家であるが）と絶叫して学生大衆を煽りに煽った。

岸総理はA級戦犯で、開戦の詔勅に署名した人物（実際には和平を求めて東條内閣の倒閣のため命懸けで辞任した、これが契機となり内閣は総辞職した）で、また戦争をしようとしているという理屈も学生達うけた理由である。

しかし、我々は「非武装中立」は、日本を共產主義国家に導くための手段であるとみた。日本から米軍がいなくなれば、近隣国の中での軍事大国であるソ連

が、いつでも兵を送って占領することが出来る。第二次大戦前にバルト三国が、おちいった運命である。（ソ連はその際、使われた相互援助条約を、園田外務大臣（昭和五十二年）の時まで日本に押しつけようとした）

我々は六十年当時、岸内閣を倒すために、武力革命が当然おこなわれるであろうと考えた。

ソ連はミサイルを日本の頭上におとすまで脅迫した。我々は、ごく少数のグループであったが、活発に賛成運動を展開した。学内の学部自治会の委員長を奪い、学生は学生のための運動をすべきで政治運動をすべきではないと主張し安保反対決議に最後の最後まで反対した。雄弁会にこぞり、全国大学の演説会で安保賛成演説をした。自民党本部とも協力して、討論会にも積極的に出て賛成討論を展開した。民社等支持の労働組合とも協同し

て、安保賛成デモも行った。

三年生のとき早稲田祭では雄弁会主催の模擬国会で、私が総理となり、国会に一年さきかけて、日米安保協定を審議した。

しかし、大衆運動は、六十年にはいつて国会に突入してデモで樺美智子が死んだことによって大きな転機をむかえる。今までノンポリでマージャン屋にたむろしている連中まで、デモに加わり、各大学から徒歩で国会に向かい激しいデモがくりひろげられた。我々が学内で運動する余地は全く失われた。

国会は、衆議院で強行採決をして、参議院に送付し、一ヶ月後の自然成立をまつことになる。この間に、アイゼンハワー大統領の訪日が行われることになる。根廻しにきたハガティ報道官が羽田空港を出たところで激しいデモに囲まれ身動きができなくなり、米軍のヘリで救出された。

このことから、我々は、天皇陛下がアイゼンハワー大統領を迎える訪日の際に武力行動が行なわれるときだと考え、二十数名の同士と一緒に、天皇陛下をお守りして決死隊となることを決意した。ところが、ア大統領は、フィリピンまで来ているながら、日本には来日せず、訪日は沙汰止めとなった。

また、これは、あとで知ったことであるが、日本共産党も五九年には武力革命を断念していたのだ。当時の宮本共産党書記長は、対談集で「武力革命が成功するときは、軍（自衛隊）と警察が、革命大衆の側につくか、最低でも中立を守るかでないとうまくゆかない」と語っている。当時の学生運動の指導部は、我々は運動の最前線でこれだけ戦つてるにもかかわらず、なぜ本部執行部は武力革命に起ち上がらないのかとつめより、学生

運動担当の中央執行委員に暴行を働いたとされる。このことで、当時の学生運動幹部は、共産党を除名されることになる。彼等は一〇年後の七〇年安保こそ武力革命で勝負するという考え方をもち、反日共系全学連を結成することになる。

ヘルメットとゲバ棒に象徴される暴力革命を志向する全学連の誕生である。大学を占拠し、革命の拠点となし街頭戦を戦ってゆくというもので、大学の自治会費を活動費に使い、多くのセクトが誕生する。この世代を各セクトが一般学生と共闘したので全共闘の世代と稱する。

運動が本格化したのは、七十年代の前後半にかけて、早大の占拠から始まり、それまで保守的で学生運動の低調であった日本大学、神奈川大学まで巻きこまれてゆく、唯一、まきこまれなかった大学は、国士館大学で

あった。総長の柴田徳次郎先生（早大出身）が母校のためといつて応援をしていただいた。

三浦信行君（理事）が筆頭で支援の輪が広がっていった。私は当時大学院を卒業して、千葉三郎先生が主宰するAPU（アジア国会議員連盟）の事務局にいたが、母校の危機に際し、仲谷俊郎君（理事）他の働きかけがあつて、応援にかけつけた。相手方の組織に対抗するには、こちらでも大学連合の組織をつくる必要があると考えて日本学生同盟（日学同）を結成して戦った。

日学同は、右翼運動とは一線を画し、あくまでも日本の自由と民主主義を守る学生組織とした。その時各大学から参加してくれた仲間が益山茂君（理事）、南部晴彦君（理事）である。

各大学のストによる占拠を、良識派の学生によびかけ、スト

権解除によつて、大学の開放を行つてゆく。反日共系の全学連は、その暴力性によつて、国民大衆の支持を失い、自滅してゆくことになる。

私は、日米安保五十周年のシンポジウムで述べたことは「安保騒動で死なずにいきながらえ、代議士となつて、村山内閣の防衛庁長官となり、その際、総理に直談判して非武装中立ではなく、日米安保の堅持を確保し、自衛隊の合憲を認めていただき、防衛政策を変えることなく続けることができた。これが国家のためいささかお役に立つことができたのかとおもう」と述べておいた。

今また、鳩山内閣から菅内閣に替わつたのであるが、依然として安全保障の問題は提起されなくてはならない。なぜなら、菅総理は全共闘の出身であり、

我々と激しく斗つた相手である。閣僚の中にも官房長官はじめ、何人かいることである。とくに千葉法務大臣は警官隊に火炎ビンを投げつけたことで知られる。

社会運動家出身者は、社会への視点はもっているかもしれないが、国家への視点はもっていない。国家権力は悪であるという考え方であるからである。菅内閣は鳩山内閣の安全保障政策を継承するといっているが、その真贋を見極めるときが間もなくやってくる。

我々は、日米安保条約を守り、日本国家の為に戦つてきたことを忘れてはならない。流行不易という言葉があるが、安保は不易なのである。このことを忘れてはならない。

我々は、もう一度原点に立ち還り、国家国民のため余生の命を捧げようではないか。

台北駐日経済文化代表處

代表 馮 寄 台

降りしきる蟬の声に夏の盛りを感じた頃になりました。亜東親善協会の皆様におかれましては益々御清祥のこととお喜び申し上げます。貴協会が今年で設立六十一周年を迎えるに当たり、謹んでお祝い申し上げます。

台湾の近況について皆様ご関心があると思いますが、本誌をお借りして、台湾海峡兩岸関係及び台湾の安全保障について説明させて頂きたいと存じます。

一、兩岸関係の改善：

過去八年間、台湾の民進党前政権は反中と台湾独立の政策をとり、兩岸交流を阻止してきました

したが、皮肉なことに、この八年間で中国は台湾にとって最大の貿易パートナーとなりました。貿易額は年間四〇〇億ドルから一三二五億ドルに増加し、そして最大の投資相手国にもなり、その投資額は約三〇〇億ドルで、台湾の海外投資の約八〇%を占めています。

今、台湾人の最大の訪問先は中国で、台湾の人口二三〇〇万人のうち、年間延べ、約五〇〇万人が中国を訪問しています。また、台湾の四〇%を超える輸出が中国に向けたものであり、目下、台湾は中国の四番目の貿易パートナーでもあります。

一〇年前、台湾の総輸出額は韓国の二倍でしたが、現在は韓国の二分の一になってしまいました。その理由の一つは、台湾の企業がたくさん中国大陸に拠

点を移したからです。わが国の統計によりますと、目下、約一二〇万人の台湾人投資家と経営陣が常時中国に滞在しているとのことですが、

さらに台湾企業の投資によって中国では、一千万人以上の人が就職の機会を得ています。また中国の輸出企業のベスト一〇のうち、台湾人所有の企業は六社が入っています。これらのことはすべて台湾民進党前政権の反中と往来阻止の政策にもかかわらず、生じた結果です。

馬英九総統は、中国における台湾人の投資の保障など、台湾人の権益を守るために、中国との協議に臨んでおり、政治的争議は棚上げし、「統一せず、独立せず、武力を用いず」の三つの“ノー”を提唱し、任期中には中国との統一に関する協議は絶対にしないと明言しています。

しかし馬総統が語ったように、兩岸関係の政治的な解決はわれわれのこの世代では、やり遂げることは難しく、次世代に委ねるべきでしょう。

今日、中国は台湾のいろいろな分野および日常生活において、切っても切れない関係になっています。だからこそ、兩岸関係は台湾にとってきわめて重要な課題であり、慎重に処理する必要があるのです。

馬英九総統は過去の政策を転換し、兩岸の対話メカニズムを再開しました。兩岸の空や海の直行便、中国人の台湾観光の開放、郵便物の直接の往来、食品安全メカニズムなど一二項目の協定を締結しました。つい最近、中国と金融MOUにも調印しました。

二、兩岸經濟協力枠組協議

(ECFA)の締結：

世界に自由貿易協定(FTA)の動きが広がり、日本も一一のFTAを締結しています。過去八年間、アジア地域でお互いに五〇ぐらいのFTAが締結されました。その中で、北朝鮮と台湾だけは一つも締結していません。

今年の一月一日から、東南アジア諸国連合と中国との間のFTAが発効しました。台湾はこの地域で少しづつ取り残される危機にあります。台湾は日本、アメリカ、東南アジア諸国連合、欧州連合などの重要な貿易パートナーとFTAの調印を目指していますが、中国の反対で実現できず、世界における第一六番目の貿易大国である台湾が排除されているのは、国際社会に痛

烈な皮肉を与えていると言えるでしょう

。台湾と中国は密接な経済関係がありますけど、主権問題が障害で、FTAを締結することができません。このため、台湾新政府発足以来、この密接な、しかし錯綜した関係に対して双方は様々な解決の道を模索しています。兩岸双方は長く相談した結果、ようやく兩岸経済協議の立ち上げに合意し、今、密接に協議しているところです。

台湾はこの協定を通じて、兩岸の経済貿易関係のルール策定を望み、その他の貿易パートナーもそれに倣い、これと似た協定を締結することが期待できます。シンガポールは台湾と中国が経済協議を進めれば、台湾と類似の協定を結ぶこともできると表明しました。

三、台湾安全保障：

現在、台湾は「親米、友日、和中」の立場を取っています。京都大学の故・高坂正堯教授が、「日本はアメリカと仲良く、中国とケンカせず」と指摘したように、われわれの兩岸政策も、中国とのケンカをやめると同時に、アメリカや日本との関係を強化して、台湾海峡・兩岸の平和を共同で追求するものであり、この地域の安定と繁栄は、日本の期待と利益に合致するものと確信しています。

台湾の馬英九政権は、実務的な政府で「反中」でも「親中」でもない、いわば「和中」路線といえ、中国との論争を棚上(たなあげ)し、平和を追求するつもりであります。

しかし、中国は今も、台湾に向けたミサイル約一三〇〇基を

配備中です。過去二年間、台湾新政府はアメリカから約一三二億ドルの武器を購入しました。これは「台湾関係法」によって、台湾との盟約を重視するというアメリカの外交政策によるものです。

アメリカからの武器購入には、軍事的と政治的の二つの意味があります。長年、熱望していたブラックIIホークヘリコプターが、今年ようやく売却されました。そして、パトリオットIII型地对空ミサイル、レーダーシステムや掃海艇、ハーブーンミサイルも再び売却されました。

米空軍レムキン次官補は、五月二〇日にアメリカ国会の公聴会で、「台湾が最近完成した、長距離レーダー警戒システムは、世界で唯一、対ミサイル、対空及び対地防衛能力を兼ね備えており、しかも、パトリオットミ

サイル防御システムにも、全く適応しており、機能は強大である」と証言しました。

ですけど、私たちは台湾の自己防衛という軍事的観点から見ると、まだ足りません。台湾は今後もアメリカと最新鋭の戦闘機と潜水艦の購入について、交渉を続けていきます。

馬英九總統就任後、兩岸関係は大幅に改善しましたが、私たちは中国とつきあう時に、中国の「強権」の意識を非常に感じています。したがって、武器の売却は、アメリカが「台湾関係法」を忠実に実践してくれたことを意味しており、これにより台湾人と台湾政府がもつと自信を持つて、中国とつきあうことができると思っています。

これに加えて、アメリカはこ

の武器売却で、日本・韓国・フィリピン、そしてオーストラリア等との関係を重視することも表しています。これらの国々は、台湾を含めて皆、民主的な国家であり、共通の価値観・制度を持つています。ですから、アメリカが台湾に対する武器を売却するのは、この地域における安全保障上の約束をアメリカが守るという力強い意志を表していることになります。

馬總統は五月一二日に「日本経済新聞」のインタビューを受けた際に、「日米安保は、東アジアの安全保障の重要な柱であり、非常に重視している」と語り、「日米同盟と米台協力を支えに、台湾は軍備拡大を続ける中国とも自信を持つて関係改善の交渉ができる」と述べました。

台湾新政府は自由、民主主義

と人権を守り、国民に直接選ばれた政権です。私たちは絶対に共産中国に屈服することはありえません。私たちにとって、アメリカは台湾の安全を保障している一番重要な国であります。いつぼう、日本は台湾人にとって、最も親しみを感じ、一番親密な国であります。私たちはアメリカと日本の支援で、中国との関係を改善し、兩岸の安定を願っており、これはアジアの国々にとつても望ましいことであると思います。

最後になりましたが、今まで亜東親善協会の皆様から多大なご支援、ご協力を賜り、重ねてお礼を申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝と貴協会の更なるご発展をお祈り申し上げます。

台北駐大阪経済文化辦事處

福岡分處新處長着任

台北駐福岡経済文化辦事處の新しい處長に、代表處・會念祖總務部長が、七月十六日に着任されることになりました。

駐福岡辦事處は、台湾と九州七県及び山口県との交流窓口であり。曾處長は「三十年前に初めて福岡を訪れたとき、人情味溢れる人々が印象的であった。

九州には、美しい自然、温泉、博多どんたく祭りなどの伝統文化があり、多くの臺灣人觀光客をひきつけている。本年十一月には、台北花博が開催されるので、是非九州の方々にも臺灣にお越し戴きたい。今後さまざまな分野で相互交流を深めて参り、臺灣と九州及び山口の交流の架け橋として全身全霊で職責を全うしたい」と述べた。

生年月日 一九四九年二月二日

学歴 淡江大学日本研究所卒業

【講演記録】

社団法人亜東親善協会

第三九回通常総会記念講演

参議院選挙とその後の政局

政治評論家 浅川博忠 先生

開催日時

平成二十二年五月十三日（木）

開催場所

ホテル・ルポール麹町

どうも皆様、今晩は。ご紹介を頂いた浅川でございます。本日はお招き頂いたこと、まず冒頭、厚く御礼申し上げます。

今、お話された玉澤先生とはもう古いお付き合いで、色々と玉澤先生からも取材等、色々と幾多のご指導頂くと同時に、今日のお話を伺っていると、本まだまだ、これバツジをつけたまま

で、活躍して欲しい。所謂 本当の国士、やはり代議士、侍という字が付くのと同じに国士という視点では、ちよつと残念な、勇退だなと。まず、今日のお話、伺いながら、改めて思いました。

そこで、ちよつと私の方から、一問だけ冒頭、皆様に質問させて頂きたい。これは極めて易しい問題なのですが、平成と元号が変わって、今の鳩山由紀夫総理大臣は、何人目の総理大臣ですかという極めてやさしい問題です

時間の関係で答えを私の方で申し上げますが、これ十五人目ですね。つまり、平成になって二十一年と五ヶ月の間に、日本の総理はくるくる、くるくる、十五人も変わってきていると。ちなみに、平成の一番

最初の総理は誰かといえば、皆様、平成と書いた時の小淵官房長官が、あれは、色々ご記憶にあると思うんです。あのときは竹下登総理だったんですね。

平成元年には竹下、宇野、海部と二年の内、三人変わってるんですね。それから、今度平成六年になると、これ、細川、羽田、村山と、平成六年にも三人変わっているということも含めて、とにかくこの二十一年五ヶ月の間に日本の総理は十五人、変わった。

しかも、小泉純一郎が五年五ヶ月をやっていますから、他の人の平均、残る十四人の平均在位記録というのは、これ、一年二ヶ月そこそこなんです。

ということは、毎年行われる先進国サミットで、日本の代表

というのは、「初めまして、HOW DO YOU DO?」という初対面の挨拶をした後は、必ず翌年はまた別の人が同じことを繰り返すと。

小泉時代以外はそのものの繰り返し返し。ということは、そのG8の中で、各国からすれば日本と中長期の大事な話はしても無駄だなと。

しょっちゅうトップが変わるんで。ということを含めて、今日日本の国際的な立ち位置というのはどんどん、どんどん低くなっていると。これ、経済でもあるいは学力面でも、諸々の面でどんどん低くなっていると。いう残念ながら、現実があります。もう一点、これ経済なんです。が、ご案内のようにGDPで今年、中国に追い抜かれる。

これも玉澤先生が初当選さ

れた頃、いわゆる福田赳夫さんの福田派に入られた。この福田派清和会で、もう三十年以上前に、毎年このぐらい厚い派閥の勉強会の本を出していたんですが、これもう三十五年ぐらい前にもう、いずれ日本には高齢者社会が来るから、その対策をやらなきゃだめだという指摘もされてるんですね。

ところが、今、実際そういう中で、少子高齢化がどんどんすごい勢いで進んでいて、ある民間のシンクタンクの調査によりますと、今、日本の人口が一億二千万おります。これが四十年後の二千五十年になると、これが九千八百万人に減ると。そして、さらに九十年後の二千年になると、これ四千九百万人に減ると。

つまり、今から九十五年後に

は一億二千万いる人口が、四千九百万まで今の少子化のペースで進んでいくと、これ、そうなるやうと。これじゃあ労働力というのはどんどん減っていく、しかも、高齢化社会の中ですから、就業世代というのは減るわけですから。これでは経済の将来というのは、展望できないわけですね。というような実態がある中で、ではもっと人口を増やすための少子高齢化の少子対策というのは、どうしたらいいか。

私はこの前にも鳩山総理に会って、鳩山さんに文句を言ってきたんですが、あなた、その少子化問題というのは、福島瑞穂が女性であるから、福島さんにさせている。あなたの前は、麻生さんだって、これ、小淵優子が女性だという形で、少子化だから女性に大臣をさせると。

発想があまりにも短絡的で安直過ぎると。

もっとこれは経済の根底をいじらないと少子化というのは変えられないんだと。

つまり、それは今高度経済成長時代に人口が皆大都会に落ちちゃった。その分、過疎地域というのはどんどん増えていると。つまり、その過密と疎化が、今非常にアンバランス化して、そして地方格差が拡大している。それをもっと国土の有効利用という形で、如何に過密地域にいる労働人口を故郷なら故郷にＵターンさせるような、そういう社会整備、司法整備が必要だと。

そうなれば、大都会でキュウキュウ言つて、もうマイホームは夢だと思つていけるような三十代の社員も、同じ銀行ローン、

三千万を借りて、田舎に戻ればもう土地付き、いわゆる庭付きの５DKとか、そういうところに住める。

なれば、家は広い、通勤時間だって、大都会みたいに一時間半、二時間をかかんないで、車で三十分で職場があるってなれば、これは当然家も広いからじゃあ三人目の子供も作るかということもなってくる。

そこはそういう為のいわゆ



る公共事業というのは必要だ
ということを私は鳩山さんに
言つて、鳩山さんはあなたはそ
のコンクリートから人へなん

ていうのは、フリーズとしては
非常に分かりやすいか分から
ないけど、こういう点じゃ非常
に間違つてゐるから、そういう発
想を変えるべきだという話を
指摘したんですけど、とにかく
そういう形で、今十五人目の総
理は、鳩山さんだと。くるくる
総理は変わるたびに、日本のそ
ういう社会的、国際的な地位が
低くなつてゐる。

そこで、私はそうやつて総理
がくるくる変わるような平成
の混迷政局をゴルフのホール
インワン政局と読んでおりま
す。なぜホールインワン政局と
呼ぶかというと、パー3のショ
ットホールで、第一弾が直接カ
ップインすることがホールイ

ンワンですね。つまり、グリー
ン上でパターを使つてパット
をする必要がない。

つまり、パツとしない政局と
いうのが、そう名付けてゐる訳で
すけども、今、これは国会もそ
ういう形で、今、玉澤先生のお
話になつたように、端的に言つ
て、鳩山さんというのはまだ総
理大臣になる資質というのは
全くなくて、かつて細川政権の
官房副長官を務めただけで、い
きなりこれ一国の総理になつ
たと。

ですから、この普天間基地の
問題に限らず、いろいろなどこ
ろで迷走するというのは、これ
は、さもありません、という立場
の総理。だけど、これも、もと
を正せば、さつき玉澤先生が言
われたように、去年の選挙で民
主党三百八、自民党百十九と、

ああやつて圧勝させたという
ことは、やはり有権者が責任を
負わなきゃいけないというこ
とで、

その鳩山さんが今どう思つ
ているか。これは端的に申し上
げて、俺は三年やりたい、とい
うのは根っこにあります。

三年やりたいというのは、な
ぜかというと、自民党の末期、
いわゆる安倍、福田、麻生、皆
一年ごとで変わつてゐた。それ
が自民党のやはり総選挙で負
ける要因の一つだから。民主党
政権で同じ誤りは繰り返した
くないと。だから自分が三年を
やるんだということになって
いきます。

では、自分は三年やるために
今、当面のこの普天間基地はど
うするか。これから先、鳩山さ
んは今月の二十三日にもう一

回に沖縄に行き、その後は手の
平を返して、かつて佐藤総理が
沖縄返還の時に、この沖縄返還
を見届けるまでは私の責任だ
から、中で止められない、と言
つて、その結果は七年八ヶ月、
長期政権になつた。その手を使
うわけですね。つまり、普天間
基地移設をきちんと決着させ
るまでは、私の責任で辞めない
と言ひ切るわけです。

そして、それは五月末の決着
というのを先送りさせる。民主
党の中で、ポスト鳩山を狙つて
いる菅、岡田、あるいは原口、
あるいは仙谷、こういう人だつ
て、ここで変に六月政変が起き
て、鳩山さんが辞めちゃつて、
それで自分が普天間の問題、押
しつけられるつていうのは嫌
ですから、鳩山さんに全部これ
荷物背負わそうという形で、
鳩山さんは延命を図れるとい
う状況にまずなつてくると。



同時に、これは小沢一郎も助かるわけです。

もし六月で、鳩山が辞めたら、これも二人セットで政治と金の問題ありますから、今度は小沢は自分でやられる番になる。つまり、お互いに傷をなめ合いながら、でも、二人がいることによって、これは小沢も生き延びられるということですから小沢一郎も、絶対、鳩山を辞めさせようとしめない。

ポスト鳩山を狙う、そういう人たちも変な厄介な問題、抱え

込みたくないという形の政治情勢の中で、これは五月末決着というのは二十三日の再度の沖縄訪問の後、ソフトランディングでこれは先送りされてくるという今、政治シナリオになっております。

そういうものを見て、小沢幹事長のいわゆる起訴相当の問題含めて、内閣支持率がどんどん下がってる。

最近、一番低いのは、テレビ朝日の二〇、五%ですね。次にNHKが二十一%、テレビ朝に至っては、政党支持率も鳩山内

閣発足以来、約一・七ポイント自民党が逆転して第一党になって、という状態になって、このままいけば、二十%割れるのは時間の問題だと。でもこの小鳩コンビは、参議選まで突っ走っていくということになります。

そして、昨日私もちよつと、大島自民党幹事長と会う機会があつたのですが、恐らくこの会期も、いわゆる延長されずに、六月十六日閉幕で、六月二十四日公示で、七月十一日の参院選という形でこれを突入していく。そこで、この参院選がどうなるかということなのですが、

今第一党の民主党は改選・まずその前に、これ、ご案内だと思いますが、念のために申し上げると、参議院議員というのは、二百四十二人いるわけです。

三年ごとにこの半数の百二十一が改選されると。その百二十一の改選の中で、第一党の民主党の改選議員は五十四人います。五十四が改選される。私らいろいろと調査している現時点では、これが十減ります。民主党は、つまり四十四まで落ち込むということですね。

そして、第一党である自民党の改選議員が今、三十八です。すると、これは実際、八つ増える。つまり、四十六になる。

それはなぜかというと、前回三年前の参院選で、いわゆるその勝負の帰趨というのは、二十九ある一人区にかかってくる

のですが、三年前はこの一人区は、自民党が六勝一三敗。三つしか取れなかったんです。

ところが、今回見ると、大体ほぼ互角な戦いになっている。一人区は、ということとは、

もうそれだけで、もう一人区中心にして、自民党はもう八つ、九つ増やしてくると。逆に二十三取つていた民主党は大幅に減らすという一人区の攻防選、

プラス二人区で、小沢幹事長は必ず二人区は二人を出すんだと言つて、かなり無理を進めて、二人目を皆両立しているという形で、これも「みんなの党」の動向次第では、二人共はじけるということが起こり得るということも含めて、比較第一党は自民が四十六、そして民主は第一位に下がって四十四と。

そこを足して九十です。残る三十一議席、この内、公明党が十一議席の改選がありますけど、恐らく九つぐらいしか取れないだろうと。九つが公明党とそれから、共産党が四つ、そして社民党は二つで、十五という

ふうになってくると、これで百五と。残る十六がどうなるかというところが、この参院選の今度帰趨になってくる。

すると、今、言われているようにべらぼうに人気があるのは「みんなの党」ですね。「みんなの党」というのは、一つは渡辺喜美が与党時代に自民党を離党して、新党を作っているということと、独特の彼のキャラクター。プラス行財政改革と公務員制度改革、これもちょうど今、デパートが不振の中で、ユニクロが善戦しているみたいに、少数政党なりに専門店なんです。

政策はこの二つですと言っているんで、これ、有権者からすると、非常に分かりやすいという要素があつて、残る十六の内十は、今、「みんなの党」

が取る勢いが強いとなつてくるわけです。

そうすると、残る議席は六つになると。その六つを、その、あれしている「たちあがれ日本」とか、あるいは創新党とか、新党改革とか、こういうところが、どういう分け方をするかということになってくるわけです。そこで、注目しなきゃいけないのが、「たちあがれ日本」なんです。

というのも、皆様におかれては、三年前に参議選があつて安倍内閣で惨敗した。そして、安倍さんは暫く頑張ったけど九月に退陣して、福田康夫総理になりました。

福田康夫総理になった時に、直ちに起きたのが、福田・小沢による大連立の話。

というのが、ちょうど三年前の秋に起きました。この場面を想定して頂きたいんですね。これはシナリオ・ライターは、一に中曽根大勲位、二に読売のいわゆる渡辺恒雄、いわゆる通称ナベツネさん、それで三にナベツネさんの子分である氏家日本テレビ会長、この三人がシナリオを書いて、そして要するに、ねじれ現象が参議院で起きてるんじや、もう、これ、法律一本を通すにも手間暇かかると。

これは卒党政権を作んなきゃいけないということで、それで小沢を呼び出しに動いたのが、中曽根側近で小沢とは囲碁仲間、あるいはジョン万次郎会の会長、副会長という形で自民党の中で、一番、そういう意味じゃ小沢と接点がある与謝野馨が動き、それで、もう一人は、森喜朗が、これ、昭和四十四年

の初当選同期と。小沢と。ということで、与謝野、森というところが水面下で小沢を呼び出して、福田さんに会わせるように仕向けたんですね。

そして、それに小沢が乗って、じゃあ大連立、結構ですと。そして、私を副総理にさしてください。十七ある大臣ポストの内、自民党さんは十で結構、その代わりに民主党に六つくださいと、残る一つは公明党で結構です。

という話がまとまって、小沢は意気揚々と民主党本部に戻っていつて、もう予め常任幹事会セツトしていて、そこで常任幹事会でこれをまとめようと思った途端に、反対と言って一番先に手を上げたのが今の農水大臣、赤松広隆ですね。二番目に手を上げたのが、今の法務

大臣、千葉景子。つまり、旧社会党系の二人が、その常任幹事会の流れというのは、大連立反対でぶつ壊しにかかった。

小沢はふて腐って、そんなならオレはやってられねえやと言つて、辞表を一回出したというような場面というのが去年の秋にあつたわけです。

この延長というのが、実際は停戦ですつと今、続いてきてるんですね。つまり、三年前のでしなかつたことを今度はやろうと。

しかも、大勲位は、もうこの五月末、二十八日で九十二歳とナベツネさんも八十四歳。もう待ちきれないわけです。そして、与謝野さんだつて、森さんだつて、今期限り。

小沢だつて恐らく今期限りですね。

あと衆議院三年任期ある。するとこういう連中が、その前に果たせなかつた夢をもう一回やろうということで、今、水面下でものすごく激しく動いています。

そして、それはそのまま一番確たる形で出てきたのは先月の十日に「たちあがれ日本」というのが、いわゆる記者会見で実際、新党を作つたという記者会見しました。その記者会見をやつた翌週の四月二十五日のサンデー毎日。もし今また一ヶ月前のサンデー毎日をお持ちの方はお読み頂けば、すぐなるほどと思われるんです。

ここで、大勲位とナベツネが対談してるんですね。で、もう今、日本は大連立をやんなきゃ

やってけないと。大いに大連立をやれという趣旨の対談をしていると。

つまり、それは「たちあがれ日本」、与謝野のいる「たちあがれ日本」が正式に発足した後本来なら裏で隠れているはずのナベツネと大勲位を表に出て、週刊誌で檄を飛ばす。

そして、この間に慎太郎都知事が、あれだけ熱心にやつたのは、最初から大勲位、表に出てきたら、老害だということ、世間から反発が来ると。これ石原さんというのも、政治家時代は、中曽根さんに非常に近い人ですから。いわゆる中曽根さんが表に出るのを抑えて自分が人気があるから、名代役として、そして煽つたわけですね。

そして、もうオレは外野席だ

けじゃなくて、場合によって、自分もグラウンドに出てもいいぐらいの煽り方をして、つまりこの石原さんというのは、そういう意味で言えば、中曽根大勲位の代役で出てきているというところがこの党の発足の背景にあります。

そして今、中畑は、一応全国区で出ると、比例区で出る。ナベツネの、当然、これ、命を受けて、お前は出ると、いわゆる読売ジャイアンツの関係です。

次は今度は石原都知事は自分のいわゆる学者、文化人の仲間、五十代の一番働き盛りの威勢のいい人間をこれから比例候補として、三人立てられるか、二人で終わるかということろは、次の注目事項で、威勢のいい、そういう著名文化人を立てれば、これは場合によれば、

柔らちゃんなんて吹っ飛んじやう。

やっぱり文化人という方が政治に真面目に取り組むだろうということ、今、最後一所懸命、彼らはやっております。

つまり、残る、さつき申し上げた六議席の中で、これからその「たちあがれ日本」がどうかけるかというところは、一番のポイントです。

だから、その他の山田杉並区長とか、舛添の新党というのは、そういう意味で沈没化していくと。

つまり、新党の中では、これ二極化して、いわゆる上中下の部分は「みんなの党」と「たちあがれ日本」。下の方が舛添新党であり、山田・中田新党。これはつきり分かれてきます。そういう中で、特にこと「たち

あがれ日本」が注目される。

小沢はさつき申し上げたように、絶対辞めないわけです。

ここまで、なぜ辞めないか、理由は二つがあります。一つはここで簡単に幹事長職を放り投げたら、第二の金丸信にされるという恐怖感があると。二つ目は、そうやって参議院選挙が終わった後、政界再編、連立の枠組みの組み直しというものが、必ず出てくると。

というのは、さつき申し上げたように民主党は四十四しか取れない。

単独過半数を取るためには六十、本当は取らなきゃいけないのが、大幅に足りなくなる。なれば、小沢は裏で操る大勲位や何かの命を受けて、自分たち

もそれにすがってこようというところで、政権交代（可能）な保守Aと保守Bを両党作るんだという口実で、三年前の夢を再びと。

あの時は、小沢は野党で従う立場だけど、今度は与党だというシナリオが参議院選挙で起きてくる。そうになると、民主党と「みんなの党」と平沼新党場合によるとそこに舛添新党が、これが何人か当選するか、まあ精々一人ぐらい。ここで連立を組むと。そして、連立を組むと同時に、公明党とは閣外協力という形の新体制というのが作れる。

その時に自民党の方は、たとえ比較第一党で四十六を取ったとしても、この参議院、三年前、大負けしているわけですから、やはりこれは予算には触れ

ないと。来年度予算には触れない。それはもう堪らないという人間は、小沢が裏でささやくことによつて、二十人、三十人は飛び出てくる可能性がある。

という、いわゆる長年与党でいた自民党議員からすれば、いわゆる年末の予算編成の時に触れないと、役人は皆、素通りしていくつてのは、耐えられないというのが、これ、細川政権の時にも如実に示されて、あの時、八十六人の自民党の議員が皆途中で抜けてつたわけです。

それを小沢は仕掛けてくると。

そうすると、その時の拠点基地は平沼新党になるということ。つまり今、平沼新党は六十九・六歳の議員しかいませんけれども、参議院で二人か一人当選されることによつて、そこは

小沢民主党と組む保守Bのいわゆる拠点基地になるということの政界再編というのが秋口から起きてくる。

小沢はそこまでは絶対、幹事長を辞められないと。そういう舞台回しをできるのは俺しかいないはずだという思いが強くて、小沢はここで、この数ヶ月、参院選前にはこれは辞めるわけがないという状態で、これから政治というのは、政権交代可能な保守Aと保守Bを基軸とする二大政党時代に入るための、秋からこの参議選の終わった時から、入り口になってくる。

そして、大勲位は何を望んでいるかというところ、これはナベツネがそうですけど、一番目はさつき玉澤先生も話されてたことに絡む、これ、改憲問題です。

憲法改正。これをしてはいけないことには、アメリカに頭が上がない。今の日本は不況になってくる、なつて何割かは、アメリカの思いが、日本は軍事力でアメリカにおんぶにだつて、それで経済でアメリカの物を日本に買え、輸入しろというところ、ああだこうだ言つて、なかなか言うことを聞かないと。農産物でも工業製品でも。ならば、アメリカももつと強く出るぞというものが、いろいろな形で日本の経済、不景気にさして一つの要素になる。

そういうことを回避するためにも、少なくとも集団的自衛権、さつき玉澤先生が言われてたような、アメリカが、日本がやられる時はアメリカが助けに来てくれるけれど、その逆な時は日本は何もしませんというものでいいのかどうかとい

う問題は、これ、一つ憲法改正のネック、大きなファクターになります。それは景気対策にも直結する問題だ。

そして、二番目は、消費税をもう本年度末で九百兆を超す財政赤字。これを放置しておいたら、そんな遠く将来、遠くない将来に、これは財政破綻が起きると。つまり、財政破綻を回避させるための消費税アップと、究極的には二十%まで上げていくと。ですから、五%ずつぐらい三段階で上げていくという、いわゆる間接税のアップ。これを二つ目にやらなきゃいけない。

それは財政破綻を回避するためだ、ということですよ。

それで三つ目は、今、地方格差がこれだけ拡大しているも

のを、これをいわゆる道州制の導入によって、今の日本の国を十ぐらいに区分して、道州制の導入によって、地方格差を是正しようというのが、これ三つ目のもくろみです。これは、三年前の大勲位たちのシナリオはこれ三つでした。

ところが、小沢は道州制に反対なんです。私も直接、彼に確かめに行きました。「これ、いっちゃん、何で反対だ」と彼に聞いたら、「いや、俺は徳川三百藩と言われた地方自治体は三百ぐらいが日本に一番合う」と。「その十みたいに道州を作るということは、屋上屋を重ねて、決してプラスにならない」ということで、道州制に反対してます。その彼の気持ちは今も変わらない。

ということ、今、皆さんも「た

ちあがれ日本」の綱領を見えたものをご覧頂けば、これについて「ちあがれ日本」は、改憲と間接税、これは言っています、道州制は書いていません。

その分、逆に舛添が入っている党が道州制をやると書いています。つまり、ああいう形で、自民党半分追い出されるような形で、舛添は出ていたわけです。一番自分を安売りする形で。しかし彼もサバイバル術として、外で保険をかけているんです。政界再編後の時には、その道州制というのは、大勲位やナベツネさんが考えてるから、かけてると。

そして、もう皆様も、まあアレだと思いますが、彼は非常に舛添は、変な形で自民党を飛び出て、それで改革クラブとああいう形で。これも舛添に会って

聞いたんです。舛添は「いや、改革クラブ代表の渡辺秀央とは、三月の半ばからもう秘密折衝をしてたんだ」と彼は言うわけですね。

すると、この渡辺秀央というのは、これはどういう人物か。これ一回、自民党時代に、郵政大臣をやっただけで、名前と顔が一致する方は少ないか分からないんですが、彼は拓大出身で、拓殖大学、宗男なんかと同じ大学ですね。それで卒業した後、拓大の職員になってるんですね。

で、当時の拓大の総長が中曽根康弘だった。そして、その中曽根総長に一所懸命これをやって、うまく取り入って、国会議員にさしてもらったという形になった人です。

それで、その後、今度は小沢

一郎がいずれ次の自民党の総理になりそうだという時は、いち早く小沢を総理にさせる会というのの幹事役の一人になって、小沢にアプローチした。そういう意味では非常に政界遊泳術が長けている人です。

この人が舛添と組んでいると。これは恐らく、渡辺秀央は、昭和九年生まれですから。改革クラブでは最初は今期限りで辞めるって言ってたんですね。ところが、舛添という人気者を掴むことによって、オレはもう一期、比例区でやりたいと様変わりしてきた

これも、読めば、中曽根のメッセージャー・ボーイとして、舛添を監視すると。つまり、そういう形で、大勲位やナベツネは彼らがやりたい改憲、消費税、道州制というものを、与謝野と

舛添に担わせながら、森と何かの応援下でこういうものをやらせようという形になつてると。そして、さらに次に彼らが考えているのは、これは改憲

憲法改正するためには、これは、いわゆる今の選挙制度、衆議院の。いわゆる三百人の小選挙区、プラス百八十人の比例、これを止めちゃうんです。そして、三人区の中選挙区、これを

百五十作ると。つまり、四百八十人いる今、衆議議員を四百五十人に、三十人圧縮して、一区三人の中選挙区百五十を作るというものをもうろんでおります。

それはなぜかというところ、一つは、今の小選挙区というのは、非常にロスが多いと。もうどっちかというところ、党首、党の親分の人気度で右に行ったり左に

行ったりして、小泉チルドレン八十三名の内、過半がもう一期で終わりだと、次に去年の八月の選挙で、小沢ブームみたいなのがあつて、小沢チルドレンなど、小沢グループと言われるのが百四十人も当選してくる。こういう連中というのも皆一期やつて、小選挙区で風で次に消えていくわけです。

これほど我々の税金無駄使いされていることもないとか、色々な問題。一番大きいのは、やはりわれわれ農耕民族は、これは酷に言えばはつきりさせるのは不得手だと。やはり、そこにグレイゾンの中間層が必要だということになると、これ一区三人というのが一番、当て嵌まる。

ということ、そういうものを用意していく。そして、その

一区三人の持つ意味というのは、もう一つあるわけです。

どっちみち、大連立の行く末には憲法改正があると。その時に、憲法改正をめぐっては、政治家の中で国際社会に遅れを取らないためには、かつて小沢一郎はよく言っていたように、国際紛争が起きていた時に、いわゆる金を出します、汗を流しますだけでやめるのは「普通の国」じゃないと。血を流しますまで行つて「普通の国」だという発想ですよ

つまり、こういう憲法つてのは、九条第二項からいきなり変えて行かなきゃだめだ。私はこういうグループを急進改憲派と位置づけています。これは中曽根大勲位に似た考えです

次に、穏健改憲派というのが

あります。いきなり九条の二項というのは、国民のまだコンセンサスを得られていないから、ちよつと迂回して、例えば今、私学助成金なんつていうのは実際、これ、憲法違反になるけど、そういうところを現状に合うように直しながら、二つ、三つ迂回して、生活と直結するところを変えて、そして、九条に入ろうと。穏健改憲派グループ。これは今の総理の鳩山由紀夫とか、この間辞めた小泉純一郎とか、そういう発想です。

もう今、時効だから申し上げられると思いますが、小泉は総理やつて、一、二年目に私は密かに、民主党の鳩山と、その辺でちよつと話を調整できるかちよつとメッセンジャー・ボイーをやつてくれと言つて、鳩山のところに行つたこともあります。こういうところが、ま

あ、穏健改憲派グループ。

それで、三つ目は戦後六十五年の平和と繁栄というのは、ひとえに九条のお陰だと。指一本触つていけないというような福島瑞穂とか土井たか子に代表される、特に社民党グループの絶対護憲派ですね。つまり、今一区三人の中選挙区に変えようというのは、憲法改正をやる上で、急進改憲派、穏健改憲派、絶対護憲派というのを取り込むには三つの受け皿が必要だと。というもののシナリオまで、これ、用意されています。

ただ、これは選挙制度を変えろということは、これ、もう党利党略、個別個別に絡むんで、中々、一朝一夕ではいかないけど、一応、楽屋裏ではそういう流れまで用意されて、そして、政権交代可能な保守Aと保守

Bというものを、参院選が終わった秋口からやっていこう、というような流れが実際あると。

そういう中で場合によれば、連立、さつき申し上げたように民主党と「みんなの党」と、そして平沼新党と、場合によれば舛添新党が連立を組んで、そこに閣外協力で公明が入る時に、場合によると小沢はかつて細川政権を作った時と同じようなワルトラCと。

それは誰かと言えば、菅でもそういう民主党の議員じゃなくて、渡辺喜美をいきなり据えちゃうと。渡辺喜美の党つてのは今、衆参で六人いて、そこに十人増えれば、十六人になってそれなりのキャスティング・ボートを握る。喜美さんは、私が聞いたら、小沢からの誘いには絶対乗らないと。

というのは、細川政権の細川が辞める時に、オヤジは小沢に酷い目に遭わされた。あれでオヤジは寿命が縮まったんだから、そんな敵の言うことは絶対聞かないと言ってますけれども、小沢というのは海千山千ですから、あの人はもう必要とあれば、すごい猫なで声だすんです。涙も平気で流せる人だ。

もし彼が喜美さんに向かつて、いや、本当にあのミッチーの件は、自分はこれこれ、こういう事情があつて、ついついミッチーには申し訳ないことをした。それが私はずっともう気になつて、この十何年間眠れなかつたと。だから、その報いをせめて君を総理にすることに、なんて言つて泣き落としで行つたら、それは喜美さんだって、そこまで言われるんならなんて言つて、ころっと連立の

大将になりかねない。

そういう要素も若干あります。とういうようなところで、ちやうど時間になってきたんで、とにかく、今度の参院選は、そういう次の新たな政界再編劇の入り口になる可能性があるし、また、そうなることがさつき話をさせて頂いたようなホールインワン政局で、総理が一年ごとにくるくる変わるものを脱却していつて、国益にプラスなるような形になるように願いたいと同時に、もう皆様もそういうことをお含みしながら、参院選や来年の統一地方選に対応して頂きたいと思えます。

最後に皆様の、この亜東親善協会、ますますご発展されることを、心からお祈り申し上げます。どうも失礼しました。

【文責・亜東親善協会事務局】

歴史と政治

西暦一九一二年辛亥革命の

翌年が民國元年。

(今年は民國九九年)

臺灣島の存在は三世紀末の文献に東鯤夷州などの呼称で記録されているが、元代(十三世紀)、明代になっても中国大陸との関係は稀薄であった。

十六世紀中頃、臺灣近海を航海中のポルトガル人が沖合から臺灣を見て「Ilha-formosa」(麗しの島)と呼んだのが、臺灣の別称でもあるフォルモサの呼び名の起源と言われている。

十七世紀初頭にオランダが進出する以前の臺灣には、原住民約十万人と数千人の中国移住民、倭寇の末裔の日本人、中国系海賊、オランダ商人などが住んでいた。一九二四年にオランダ艦隊が台南の安平に上陸築城し、

一六六一年明朝の鄭成功に追われるまで、臺灣は対日・対中国大陸貿易の基地として栄えたが、

鄭氏時代(一六六一―一六八三年)も永続せず三代で清朝に屈し、福建省の一部に編入された。

清朝は臺灣を「化外の地」として半ば無視し続けたが、一八八五年、西洋列強と日本の中国東南沿海への進出が強まる中で、臺灣省に昇格、省行政の中心地は台南から台北に移された。当時の人口は約二五〇万人と言われている

日清戦争の結果、一八九五年、下関条約により臺灣は日本の統治下に入り、一八九五―一九四五年の半世紀にわたる日本統治時代となった。その間、中国大陆では辛亥革命が起こり、一九一二年、孫文を臨時總統とする中華民國が成立、アジアで最初の民主共和国が誕生した。

一九四五年の第二次世界大戦終結後、臺灣は中華民國に復帰したが、その後の国共内戦の末、

一九四九年に中華人民共和国が成立すると、中華民國政府は臨時首都を台北に移して、政權の継続を図った。

しかし、一九七一年、国連総会で中華人民共和国の代表権を認め、中華民國を追放するといふアルバニア案が可決されたのにともない中華民國は国連を脱退、一九七二年には、日中国交正常化に伴い日台間の国交関係も断絶された。

蒋介石總統の死後に実権を掌握した蔣經國總統(蒋介石の子)は、約四十年間存続した戒嚴令を解除、野党の成立を認めるなど、その晩年に臺灣の自由化と民主化に着手した。

一九八八年蔣經國總統の死去に伴い總統職を継位した李登輝總統は、国会全面改選、總統直接

選挙などの民主化を進展させた。

一九九六年に実施された第一回總統直接選挙では、国民党現職の李登輝總統が当選を果たした。

二〇〇〇年に行われた第二回總統選挙では、国民党側が分裂選挙となったことから、民進黨の陳水扁總統が当選し、与野党間初の政權交代が実現した。

民進黨は続く二〇〇一年に行われた立法院(国会)選挙においても躍進し、国会でも第一党となったが、親与党勢力の臺灣團結連盟を加えても過半数に達せず、立法院で野党勢力(国民党、親民党、新党など)が多数を占める「ねじれ現象」は解消できなかった。

二〇〇四年に行われた第三回總統選挙は、民進黨現職の陳水扁總統と野党国民党候補の一騎打ちとなった。民進黨は組織票といった基礎票では国民党に勝

てない計算であったが、投票日直前に起きた陳水扁總統銃撃事件も影響し、陳水扁總統が得票率にして〇・二％という僅差で辛勝した。

しかし、その国民党がその敗北を素直に認められなかったため、ねじれ国会における反対攻撃等与野党対立が深まり、野党の猛反撃が始まった。

二〇〇五年十二月に行われた台北・高雄直轄市を除く統一地方選挙では、国民党が十四縣・市長を獲得したのに対し、民进党は六縣・市長しか獲得できなかった。

続く二〇〇六年十二月に行われた台北・高雄市長選挙は、陳水扁總統の娘婿、總統夫人にかかる疑惑に端を発した總統辞任を要求する大規模デモの余韻冷めやらぬ中であつたにもかかわらず、民进党が高雄市長を死守した。台北市長は国民党ホープ

とされる元行政院長子息の郝龍斌が当選した。

二〇〇八年一月に行われた立法院選挙は、定数半減、小選挙区比例代表制採用後初の選挙であつたが、国民党が定数一一三の三分の二を越える八一議席を獲得し、民进党はわずか二七議席となつた。

このような趨勢の中、三月二二日に行われた第四回總統選挙では、国民党の馬英九・蕭萬長ペアが民进党候補に二〇〇万票の大差を付けて圧勝し、二回目となる与野党間の政権交代を実現し、臺灣民主化の成熟度を示した。そして五月二〇日、馬英九が總統に就任し、劉兆玄内閣が発足した。

十一月十二日、汚職容疑で陳水扁・前總統が拘留され、十二月十二日に夫人や息子夫婦らとともに起訴された

*台北案内より

二〇一〇年度双十國慶節祝賀団

羽田・松山就航記念訪台団

訪台期間 十月八日より十一日

三泊四日

募集人員 十名（以下は協議）

募集締切 八月三十日（月）

視察経費 十二万円（予定）

経費に含まれるもの

往復航空運賃（エコノミー）

二人一部屋料金（國賓大飯店）

食事代。視察費。交通費。空港使用税。燃油サーチャージ。

*一人部屋追加料金 三万円

第一日目（十月八日 金曜日）

午前 成田発 午後 桃園着

大溪郷・慈湖寢陵。鶯歌。

第二日目（十月九日 土曜日）

終日、觀光・視察【歓迎夕食】

第三日目（十月十日 日曜日）

國慶双十祝賀式典参加

【祝賀夕食・台北迎賓館】

第四日目（十月十一日 月曜日）

午後 桃園発 夜 成田着

最終日程・費用は八月末に決定。

訪台期間 十月三十一日（日）

十一月三日（水）

募集人員 十名（以下は協議）

募集締切 八月三十日（月）

視察経費 十三万円（予定）

経費に含まれるもの

往復航空運賃（エコノミー）

二人一部屋料金 食事代。

視察費 交通費 空港使用税。

燃油サーチャージ。

*一人部屋追加料金 三万円

第一日目（十月三十一日）

午前 羽田発 午後 松山着

台北市内視察。【祝賀宴】

第二日目（十一月一日）

嘉義・阿里山泊

第三日目（十一月二日）

阿里山（）来光觀賞。

嘉義經由・台北市内へ

第四日目（十一月三日）

午後 松山発 夜 羽田着

最終日程・費用は八月末に決定。

台北文化センター

(台湾週報より)

台日間の文化交流の促進を目的とした「台北文化センター」が、東京都港区白金にある台北駐日経済文化代表處一階に設置された。

四月二日に看板除幕式及び開設祝賀会が日本の政官財関係者、文化・芸術界関係者、メディア界の関係者、日本在住の華僑関係者ら台日双方の多くの関係者が出席の下、盛大に開催された。

除幕式・開設祝賀会には、島中篤交流協会理事長、日華議員懇談会会長・平沼赳夫衆議院議員、衛藤征四郎・衆議院副議長、亜東親善協会副会長・大江康弘参議院議員、(協会・張建國、橋本、藤山各理事他)、台湾出身の版画家ジューディ・オングさん、囲碁棋士の張栩・四冠、歌舞伎俳優の市村萬次郎さんら来賓のほか、

台湾からは、同センターを主催する台湾の行政院文化建設委員会(以下、文建会)のトップ、盛治仁・主任委員(閣僚級)、台北駐日経済文化代表處からは馮寄台・駐日代表、林水福・台北文化中心主任が出席し、除幕が行われ、正式にオープンした。除幕式の後、会場を駐日代表公邸に移し、開設祝賀会が行われた。



馮駐日代表は挨拶の中で、「台北文化センターの開設は当代表

處の今年の重要な仕事の一つであり、今後は『国立故宫博物院』収蔵文物の日本展示業務を担当するほか、両国の文化・芸術関係者の交流を促進する架け橋になるよう努めていく。同センターの開設により台日両国の文化交流がより一層活発になるようにしていきたい」と示した。

文建会の盛・主任委員は、「日本での台北文化センター設立は馬英九總統の選挙公約の一つであり、実現できたことは喜ばしい限りである。東京の文化センターは、ニューヨーク、パリに続いて海外に設立した三番目の文化センターであり、アジアに於いては最初の設立である」。

更に、ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊博士が「日台の人々の間でさらに文化的な交流が深まっていくことを心から願っている」と期待の意を示した。また、乾杯の音頭をとった歌

舞伎俳優の市村萬次郎さんも「文化は心である。本日の文化センターの開設は、心の新しい窓が開いたということであり、これから未来に向けて、日台の文化交流がより一層興り、両国の関係がより親しくなるよう記念する」と述べた。



采風楽坊の演奏

暑 中 お 見 舞 い 申 し 上 げ ま す

台北駐日經濟文化代表處 代 表 馮 寄台	財団法人交流協会 理事長 畠中 篤	財団法人台灣協会 会 長 園部 逸夫 理事長 齋藤 毅	日華親善協会全国連合会 会 長 平沼 赳夫 東京都千代田区永田町一・十一・二八 相互永田町ビル二階 電話〇三・三五〇八・五八六一
参議院議員 大江 康弘 東京都千代田区永田町一・一・一 参議院議員会館五〇九号室 電話〇二・六五五〇・〇五〇九	参議院議員 山本 順三 東京都千代田区永田町一・一・一 参議院議員会館七二四号室 電話〇三・三五〇八・八七二四	衆議院議員 金子 恭之 やすし 東京都千代田区永田町一・一・二 衆議院第一議員会館四二〇号室 電話〇三・三五〇八・七四一〇	台北駐日經濟文化代表處 横浜分處 處 長 黄 明朗 横浜市中区日本大通り六〇 朝日ビル一階 電話〇四五・六四一・七七二七
台北駐日經濟文化代表處 札幌分處 處 長 徐 瑞湖 札幌市中央区北四条西四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一・一二二・一九二〇	台北駐日經濟文化代表處 那覇分處 處 長 李 明宗 那覇市久茂地二・一五・九 アルデビル那覇八階 電話〇九八・八八二二・七〇〇八	台北駐大阪經濟文化辦事處 處 長 黄 諸侯 大阪市西区上七堀一・四・八 日栄ビル四階 電話〇六・六四四三・八四八一	台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處 處 長 曾 念祖 福岡市中央区桜坂二・一二・四二一 電話〇九二・二七三四・二八二〇

暑 中 お 見 舞 い 申 し 上 げ ま す

 Touch Your Heart 台湾観光協会東京事務所 所 長 黄 怡平 東京都港区西新橋一・五・八 川手ビル二階 電話〇三(三五〇二)三五九一	財団法人寧波旅日同郷會 理事長 傅 健興 東京都中央区銀座六・十二・七 同郷会館 電話〇三(三五四二)九九八九	代表取締役社長 國 廣 傑 東京都中央区銀座二・八・十三 銀座二丁目ビル一階 電話〇三(五五五四)〇八八〇 チャイナエアラインズグループ ㈱ダイナスティー ホリデー	中 華 航 空 日本支社長 楊 辰 東京都一丁目区内幸町一・二・一 日土地内幸町ビル八階 電話〇三(六三七八)八八八〇
後藤泌尿器科皮膚科医院 院 長 後藤 康文 埼玉県草加市大通一・三・一四 電話〇一九三(六八八)二六二〇	ヤマザキ・ナビスコ株式会社 代表取締役社長 飯 島 茂彰 東京都新宿区西新宿一・二六・二 新宿野村ビル四〇階 電話〇三(三三四四)六二二一	エイチアイグループ TOKYO DAIHANTEN 常務取締役 李 ハロルド 東京都新宿区新宿五・一七・一八 電話〇三(三三〇二)〇二二一	エイチアイグループ TOKYO DAIHANTEN 代表取締役兼 最高経営責任者 李 純京 東京都新宿区新宿五・一七・八 電話〇三(三三〇二)〇二二一
日華仏教文化交流協会 東京都台東区寿一一一九一 電話〇三(三八四二)二七二二	株式会社自由新聞社 社 長 黄 清林 東京都港区三田五・一八・二二 電話〇三(三四四六)一五五六	株式会社ホテル横須賀 代表取締役 長 尾 和典 横須賀市米が浜通り二・七 電話〇四六(八三五)二二二一	有限会社沖山興業 代表取締役 沖 山 建夫 東京都八丈島八丈三根一八・一五 電話〇四九九六(二〇二二)

暑 中 お 見 舞 い 申 し 上 げ ま す

学校法人電子学園 理事長 多 忠和	㈱マリノロジスティックス 代表取締役社長 小松 省二 東京都中央区日本橋人形町一・三四・八 人形町WINビル三階 電話〇二三六六七 一一〇〇	あさみ野ローンテニスクラブ 代表 益山 茂 横浜市青葉区あさみ野一・一九・一 電話〇四五(九〇)二九〇二一	前衆議院議員 社団法人亜東親善協会 顧問 橘 康太郎 東京都千代田区丸の内一・二・一 岸本ビル三百十四号室 電話〇三(六二)二五 一一三八
社団法人亜東親善協会 副会長 池田 偵一郎 千葉県佐倉市葛前二・十一・五 電話〇四三(四八)二二二二二	社団法人亜東親善協会 副会長 張 建國	社団法人亜東親善協会 副会長 張 碧華	社団法人亜東親善協会 専務理事 崎谷 秀彦
社団法人亜東親善協会 理事 吳 淑娥	社団法人亜東親善協会 理事 東 達夫 電話〇三(四八)七 一五三五	社団法人亜東親善協会 理事 赤松 則宏	アジア問題懇話会 大陸問題研究会 会長 高野 邦彦 東京都港区三田五・十八・十一 電話〇三(三四)四四 五七四五

社団法人亜東親善協会顧問

(国会議員・五十音順・敬称略)

若林 正俊	山本 順三	山内 俊夫	村田 吉隆	水野 賢一	古屋 圭司	平沢 勝栄	萩生田 光一	長勢 甚遠	谷川 弥一	高木 美智代	島尻 安伊子	小島 敏男	岸 信夫	金子 恭之	奥野 信亮	遠藤 利明	魚住 裕一郎	石破 茂	麻生 太郎	安倍 晋三
鷺尾 英一郎	吉川 貴盛	山崎 正昭	森 喜朗	宮路 和明	前原 誠司	平田 健二	鳩山 邦夫	中村 喜四郎	鶴保 庸介	棚橋 泰文	下地 幹郎	坂本 剛二	北村 茂男	亀井 久興	奥村 展三	大江 康弘	白井 日出男	泉 信也	新井 悦二	愛知 和男
渡辺 博道	吉田 六左工門	山根 隆治	矢野 哲朗	三ツ林 隆志	松下 新平	平沼 赳夫	浜四津 敏子	並木 正芳	中井 洽	田名部 匡省	世耕 弘成	笹川 堯	木村 仁	亀岡 偉民	嘉数 知賢	大野 松茂	内山 晃	岩城 光英	井上 信治	赤池 誠章
渡部 篤	吉村 剛太郎	山本 明彦	谷津 義男	村上 誠一郎	松本 洋平	船田 元	林 幹雄	西村 真悟	長島 昭久	谷川 秀善	高市 早苗	山東 昭子	小池 百合子	神取 忍	金子 善次郎	大野 功統	江崎 洋一郎	岩屋 毅	伊藤 公介	秋元 司

社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

馮 林	寄 錦	台 清	中田 小田	宏 村四郎	畠 中 黄	篤 林 昇	齋藤 瑞 鄭	毅 祥 仁	劉 長尾 李	東 孝 純	光 則 京
楊 羅	作 王	洲 明珠	李 謝	海 文	李 橘	康 太郎	吉村 俊夫				

社団法人亜東親善協会役員

[会 長]	玉澤 徳一郎																			
[副 会 長]	池田 偵一郎	張 建 國	張 碧 華	大江 康弘																
[専務理事]	崎谷 秀彦																			
[事務局長]	南部 晴彦																			
[総務担当]	仲谷 俊郎	[組織担当]	益山 茂	[財務担当]	赤松 則宏															
[事業担当]	小松 省二	[国会担当]	橋本 靖男																	
[理 事]	千葉 健司	東 達夫	新井 秀子	李ハロルド	松永理恵子															
	多 忠和	三浦 信行																		
[監 事]	莊司 隆一	藤山 雅康																		
[支 部 長]	[青森県]大見光男 [岩手県]高橋義麿 [茨城県]石川多聞 [広島県]月村俊雄																			

【お知らせ】

○ 亜東親善協会通常総会

第三十九回通常総会は、五月十三日ホテル・ルポール麹町で開催。新理監事・新役員が選任され、就任致しました。

○ 社会見学会・七月十五日、茨城空港、百里基地、イトウ製菓、日本原子力研究開発機構視察を催行いたします。

○ 訪台団（辛亥革命百周年念）

十月八日から十一日まで双十国慶節祝賀団を催行致します。

○ 訪台団（日本・羽田空港・台北・松山空港就航記念）

十月三十一日から十一月三日まで初フライト搭乗。阿理山観光。

○ 台北駐大阪経済文化辦事處福岡分處長に曾念祖総務部長が着任。

○ 台湾文化センターは、四月二十一日より代表處一階に設置された。

○ 国慶節祝賀会 台北駐日経済文化代表處一〇月七日・Hオークラ。

東京華僑総会は、一〇月三日・東京中華学校。

【編集後記】季刊「亜東」夏季号 No.三十四号

○ 5月十三日に開催された当協会総会後の講演会で、政治評論家

浅川博忠先生をお招きし、「参議院選挙とその後の政局」と題するご講演を戴きました。（別掲講演記録） 当会顧問議員の中にも

今参議院選挙で、引退・改選される先生方がいらっしやいます。

浅川先生の選挙結果・政局予想が大変気になるところです。

○ 社会見学会は、予算編成上の財源問題、景気と関連して、防衛費

科学技術費、安全保障費（食の安全）削減の是非をも検証する為

国交省・茨城空港。防衛省・百里基地。文科省・J・PARK。

イトウ製菓を視察し、最新技術等現状把握出来ればと思います。

○ 協会の活性化を目指し、会員の拡充を図っています。

会員各位のご紹介により皆様のご参加を期待致しております。

（申込書は事務局に用意してあります）

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜 東】は中華民国總統馬英九閣下の御揮毫です

季 刊 亜 東 (アジアの架け橋) 平成22年 夏季号 (No.34)
 発行日 : 平成22年7月15日
 発行所 : 社団法人亜東親善協会
 編集人 : 南部晴彦
 所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階
 Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770
 H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>
 印刷 : ヨシダ印刷株式会社

やすらぎの空、快適な翼。

